

令和5年度 事業計画書
(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

認定NPO 法人千葉県東葛地区・生と死を考える会

1 事業実施の方針

自他のいのちの完成を目標に、生と死をめぐる諸問題を広く市民に投げかけ、オンラインの手法も取り入れながら相互の対話を促進することで、豊かな社会づくりに寄与することを目的とする。

その目的を達成するため、**法人**としては会の活動を会員及び市民だけでなく、会社等の法人にも広く周知して理解者を増やし、人的にも財政的にも支援者を募る。認定NPOの寄付控除の利点も活用し、財政基盤の強化も目指す。**生と死をめぐる社会教育事業**については、月例講演会やデス・カフェ、メモリアルサービスを実施し生と死をめぐる諸問題を考えるきっかけを作る。またホスピス・ボランティア養成講座を開催し主に対面で実施しボランティアスタッフの養成を目指す。グリーフケア講座については講座内容を構築していく。本年は当会30周年に当たり記念事業を実施する。記念事業は生と死を考える会全国協議会全国大会を兼ねることとし、多くの市民参加を促し成功を目指す。**患者と家族を支援する事業**については、通常の各施設での活動を継続、また新たな活動方法や活動場所を模索する。**死別体験者を支える事業**については、これまでどおりの分かち合いの会を継続するとともに、新たに若年層及びペットの飼い主に対し開催する。電話相談活動は回数を増やし継続する。**広報・情報提供事業**については生と死に関する情報をホームページやSNS（facebook、twitter）を使い有効活用する他、各種チラシやニュースレターを作成する。

2 法人運営

- ・総会の開催（年1回；2月）
- ・理事会の定期開催（1/21、6/3、9/30、12/23の年4回）
 - 1月－事業報告決算、6月－各事業計画報告その他、9月－各事業計画報告その他、12月－事業計画予算、仮決算）
- ・患者と家族を支援する事業運営委員会（年3回以上）
- ・死別体験者を支援する事業運営委員会（年3回以上）
- ・30周年事業実行委員会（3ヵ月に1回の予定だが、当日が近づくとこの限りでない）

3 事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動にかかる事項

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の 予定人数	受益対象者の範囲 及び予定人数
(1)生と死をめぐる社会教育事業	月例講演会、体験発表会及びデス・カフェ	1月、3月、4月、5月、 6月、7月の土曜 14:00～16:00	オンラインまたは麗澤大学内施設	各回 5人	会員及び一般市民各回50人
	メモリアルサービス（追悼音楽礼拝）	11月25日(土) 14:00～17:00	キャンパスプラザ会員会館	15人	会員30人及び一般市民10人
	ホスピス・ボランティア養成講座	4月～7月（10回） （フォローアップ講座 9月～11月）	麗澤大学内施設	5人	会員及び一般市民定員30人

	グリーフケア講座 構築	関係者で随時開催 ※R6 年開催を目指す	法人事務所	4 人	
	グリーフケア従事者認定	9 月～11 月 (受付～審査)	法人事務所	3 人	会員及び市民 2 人
	30 周年記念事業兼 生と死を考える会 全国協議会全国大 会。詳細は別紙	10 月 14 日(土)、10 月 15 日(日)	麗澤大学かえ で校舎	30 人	会員、全国協議会 会員、一般市民、 学生の約 300 人
(2)患者と家族を 支援する事業	患者とその家族に 寄り添う活動(患者 を支える会)	第 1 月曜 14:00～16:00 第 3 水曜 10:00～12:00	島村トータル・ケ ア・クリニック、 島村洗心苑(未定)	7 人	当地区のがん等 の患者、30 人
		第 2 月曜・第 4 月曜 14:00～15:30、第 1 金 曜、第 3 金曜・第 5 金 曜、14:00～15:30	旭神経内科リハ ビリテーション 病院	25 人	当地区の入院の 患者、60 人/月
		(病棟)火 14:00～16:00 (在宅)14:00～15:00	柏市立柏病院	17 人	当地区のがん等 の患者、60 人/月
		第 2 金曜・第 4 金曜 14:00～16:00	マザアスクアセンタ ー在宅ホスピス南柏	7 人	当施設の入所者、 50 人/月
(3)死別体験者を 支援する事業	まんりょうの会 (自死遺族の語り合いの場)	第 3 日曜 10:30～12:20	法人事務所	2 人	柏市とその近辺 市民 5 人/回
	喪失体験者の集い	第 3 日曜 13:30～15:30	法人事務所	3 人	柏市とその近辺 市民 5 人/回
	痛みの分かち合い の会	第 1 木曜 13:00～15:00	バレット柏	4 人	柏市とその近辺 市民 10 人/回
	遺族のためのグリー フ・ケア	第 1 木曜 13:30～15:30	柏地域医療連 携センター	2 人	柏市とその近辺 市民 5 人/回
	こころの痛みの相 談室	第 2 水曜 13:30～15:30	法人事務所	3 人	柏市とその近辺 市民 5 人/回
	子どもグリーフサ ポートの集い	偶数月第 1 日曜	法人事務所	8 人	関東全域から親 2 人 及び子ども 5 人/回
	こころの相談室	金曜日 14:00～16:00	島村トータル・ケ ア・クリニック	3 人	松戸市とその近 辺市民 4 人/回
	大切な人を亡くし た方の集い	第 2 または第 3 月曜、 火曜 13:30～15:30	守谷市中央公 民館	3 人	守谷市とその近 辺市民 5 人/回
	大切な方やご家族を 亡くされた方の集い	第 1 金曜 13:30～15:30	流山野々下福 社会館	2 人	流山市とその近 辺市民 5 人/回
	若者の分かち合いの会の 集い (18 歳～30 歳代)	第 1 土曜 10:30～12:30 ※4 月より	法人事務所及 びオンライン	3 人	全国の市民及び柏市と その近辺市民 5 人/回
	ペットに関する グリーフサロン	第 2 土曜 13:30～15:30	法人事務所	2 人	柏市とその近辺 市民 5 人/回

	ちばグリーフサポート	第2月曜 14:00～16:00	千葉市 Qiball (きぼーる)	3人	千葉市とその近 辺市民 10人/回
	わかちあいの会 (グリーフサポート埼玉)	第4日曜または第5日 曜 13:30～15:30	越谷市市民活動 支援センター	14人	越谷市とその近 辺市民 10人/回
	グリーフケア個別 相談	希望者と日程調整 10:30～12:00 及び 14:00～15:30	当会事務所	1人	柏市とその近辺 市民 2人/月
	グリーフケア電話 相談	第1月曜 20:00～22:00 第2火曜 20:00～22:00 第3金曜 20:00～22:00 第4火曜 10:00～12:00	担当者宅	4人	全国の一般市民 3 人～4人/回
(4)広報・情報提 供事業	ニューズレターの 作成	7月	法人事務所	10人	会員・市民他関連 団体 500人
	ホームページの更 新及び SNS による 広報、各種チラシの 作成	随時	法人事務所	3人	会員・市民

※死別体験者を支援する事業にて、上智大学グリーフケア研究所のグリーフケア人材養成講座受講生の
実習受入れ

《月例講演会等》講演会及び2回のデスクカフェをオンラインまたは対面で行います。

**1月28日(土)－白崎知美氏、2月25日(土)－総会、3月25日(土)－未定、4月22日(土)－未定、5月
27日(土)－未定、6月24日(土)－未定、7月22日(土)－未定、11月26日 メモリアルサービス**

※8月、12月はお休み。9月10月は30周年記念事業のためお休み。

【30 周年記念事業計画】

生と死を考える会全国協議会全国大会兼

認定 NPO 法人千葉県東葛地区・生と死を考える会 30 周年記念大会

○テーマ

『喪失から受け取るもの—新しい物語・ナラティブの始まり—』

○開催趣旨

認定 NPO 法人千葉県東葛地区・生と死を考える会は 1993 年発足以来、三つの目標—①生と死をめぐる教育②患者と家族を支援するホスピスケア活動③死別体験者へのグリーフケアを掲げ、生老病死について学び語らいをし、またボランティアとして、患者当事者や死別体験者に寄り添い、こころの痛みを分かち合う活動を特定の宗教団体・政治団体とは一切関係なく続けてきました。

2023 年は設立 30 周年に当たります。これまでの 30 年の活動は関係するすべての皆様のおかげで活動ができました。これからの 10 年も三つの目標を大切にして生と死をめぐる諸問題に取り組んでまいります。とりわけこれからの 10 年間は団塊の世代が後期高齢者になり、その家族も含め多くの人が今まで以上に死を経験する時代が近づいています。また自死、事故死、災害死等突然やってくる死は時代に関係なくあらゆるところに潜んでいます。私たちは嘆き悲しむ中で自分の死、大切な人の死、老い、病等の喪失をどう意味づけすれば良いのか。そこで今回はテーマを『喪失から受け取るもの—新しい物語・ナラティブの始まり—』として、私たちは参加する方々と共に、喪失からどのような物語が始まるのかを考えていきたいと思っています。

「生と死を考える会」は上智大学名誉教授であった故アルフォンス・デーケン氏が 1982 年に始めた運動です。次第に全国に広がり全国協議会ができました。現在は 48 カ所あり、持ち回りで全国大会が開催されてきました。近年はコロナの影響で開催できませんでしたが、今回は当会の 30 周年と同時に開催し、同志の方々と交流し議論を深めていければと思います。

○日程、会場、プログラム

令和 5 年 10 月 14 日（土）～15 日（日）、於：麗澤大学かえで校舎

（1 日目）午前 ▶ 全国協議会役員会、代表者会議

午後 ▶ 開会セレモニー、講演会①—信友直子氏、デスカフェ、全国協議会テーマ別討議

夕方 ▶ 懇親会—アトラクション；聖路加で出会った仲間たち

（2 日目）午前 ▶ 講演会②—西智弘氏、講演会③—高木慶子氏、閉会セレモニー

○対象者

当会会員、全国の生と死を考える会の会員、本大会に興味のある一般市民・学生

○参加費

生と死を考える会全国協議会会員 2,000 円、当会会員は無料だが任意で寄付を募集、一般市民・学生は無料、懇親会参加者 5,000 円

○主催

認定 NPO 法人千葉県東葛地区生と死を考える会、生と死を考える会全国協議会

○後援（予定）

柏市、松戸市、流山市、我孫子市、柏市教育委員会、学校法人廣池学園麗澤大学、柏市社会福祉協議会

○展示・実演

展示：月例会、ホスピス・ボランティア活動、グリーフケア活動、実演：アロマトリートメント

○記念誌

理事長あいさつ、30 年のあゆみ、お祝いのことば、各事業紹介（月例会、ホスピス・ボランティア活動、グリーフケア活動、各種講座、広報）、対談

※講師プロフィール

○信友直子氏（のぶともなおこ） 講演テーマ「未定」

（ホームページより抜粋）

1961 年広島県呉市生まれ。父・良則、母・文子のもとで育つ。1980 年広島大学附属高校卒業。1984 年東京大学文学部卒業。同年、森永製菓入社。広告部で社内コピーライターに。1986 年制作会社テレパック入社。テレビ番組制作の道へ。1995 年から制作会社フォーティーズへ。2009 年自身の闘病を記録した「おっばいと東京タワー～私の乳がん日記」を発表。ニューヨークフェスティバル銀賞・ギャラクシー賞奨励賞などを受賞。2010 年独立してフリーディレクターに。主にフジテレビでドキュメンタリー番組を多く手掛ける。北朝鮮拉致問題やひきこもり、若年性認知症などの社会的なテーマや大道芸人ギリヤーク尼ヶ崎にスポットを当てた企画、草食男子の生態という文化的なテーマなど 100 本近くの番組を制作。2013 年ごろから自身の父母を被写体として家庭内介護の様子を記録し始め、2016 年、17 年に「娘が撮った母の認知症」第 1 弾、第 2 弾としてフジテレビで放送される。これが大きな反響を呼び 2017 年「ぼけますから、よろしく願います～私の撮った母の認知症」としてまとめられ BS フジで放送された。いずれも好評を博しそれが劇場公開へとつながった。2018 年に『ぼけますから、よろしく願います。』で長編監督デビュー。全国 99 劇場 10 万人を動員する大ヒットとなる。令和元年の文化庁映画賞・文化記録映画大賞など数々の栄誉に輝く。現在、くれ観光特使と、呉市総合計画審議会委員も務める。

○西智弘氏（にしともひろ） 講演テーマ「地域における緩和ケア～暮らしの保健室と社会的処方」

川崎市立井田病院 腫瘍内科 部長、一般社団法人プラスケア 代表理事

2005 年北海道大学卒。室蘭日鋼記念病院で家庭医療を中心に初期研修後、2007 年から川崎市立井田病院で総合内科／緩和ケアを研修。その後 2009 年から栃木県立がんセンターにて腫瘍内科を研修。2012 年から川崎市立井田病院に勤務。現在は抗がん剤治療を中心に、緩和ケアチームや在宅診療にも関わる。また一方で、一般社団法人プラスケアを 2017 年に立ち上げ代表理事に就任。「暮らしの保健室」「社会的処方研究所」の運営を中心に、地域での活動に取り組む。日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医。著書に『だから、もう眠らせてほしい（晶文社）』『社会的処方（学芸出版社）』など。

○高木慶子氏（たかきよしこ） 講演テーマ「未定」

熊本県生まれ。聖心女子大学文学部心理学科卒業。上智大学神学部修士課程修了。博士（宗教文化）。現在、上智大学グリーフケア研究所名誉所長。「生と死を考える会全国協議会」会長。「兵庫・生と死を考える会」会長。一般社団法人グリーフケアパートナー理事。援助修道会会員。兵庫県「県勢高揚功労」（2015 年度）、「カトリック大学連盟 カトリック学術研究奨励賞」受賞、「神戸新聞 第 63 回平和賞」受賞、「財団法人兵庫地域政策研究所機構 第 7 回 21 世紀のまちづくり・研究部門賞」受賞、など。二十数年来、ターミナル（終末期）にある人々のスピリチュアルケア、及び悲嘆にある人々の心のケアに携わる一方、学校教育現場で使用できる「生と死の教育」カリキュラムビデオを制作。幅広い分野で全国的にテレビや講演会で活躍中。著書として、『喪失体験と悲嘆－阪神淡路大震災で子供と死別した 34 人の母親の言葉』（医学書院）、『大切な人をなくすということ』（PHP 出版）、『悲しみの乗り越え方』（角川書店）、『悲しんでいい～大災害とグリーフケア～』（NHK 出版）、『悲しみは、きっと乗り越えられる』（大和出版）『それでもひとは生かされている』（PHP 研究所）『それでも誰かが支えてくれる』（大和書房）など多数。